

地域研究統合情報センター(CIAS)
共同研究合同ワークショップ プログラム

日時：2008年4月26日（土） 13時30分～18時

場所：京大会館 102 会議室 (<http://www.kyodaikaikan.jp/access.html>)

第1部 「地域がかえる制度、制度がかえる地域：資源と国家をめぐる」

関連地域研究プロジェクト「21世紀の国家像」の各研究会では、地域研究の立場から現代世界における「国家」を多角的に検証しています。今回のワークショップでは、グローバル化現象を背景に人類の共存空間の再編過程が進行する中で、世界の諸地域との関係性において「国家」がいかなる位置を占め、いかなる役割や機能を果たしているのか、あるいは果たしうるのかを、多様なアプローチ方法を交差させながら明らかにすることを目的として企画しました。

そのために、広い意味での「資源」（政治制度や文化資源、開発援助等も含めて）と国家に代わりうる政治体形成との間の相互作用の実態を探り、さらにその中での国家の位置づけについての報告を受け、比較検討します。

13:30-35 趣旨説明 山本博之(CIAS)

13:35-16:00

山本博之 (CIAS)

「森林資源管理と国家制度：マレーシアにおけるサバ人概念の形成と展開」

村上勇介 (CIAS)

「ローカルな政治は国家を変えるか—ラテンアメリカの事例から—」

佐藤雪野 (東北大学大学院国際文化研究科)

「チェコと連邦制—歴史と現在—」

柳澤雅之 (CIAS)

「生態資源利用における地域コミュニティ・制度・国際社会」

第2部 「地域情報学の現在」

地域情報資源共有化プロジェクト「時空間情報に着目した地域研究情報の創出」では、植民地研究、人類学研究、医療・保健にかかわる歴史情報等多様な分野に「情報学」を適用したあたらしいアプローチの可能性を探っています。このセッションでは、それぞれの事例における現時点での成果をデモンストレーションしつつ、「地域情報学」の可能性について認識の共有を試みます。

16:15～18:00

原正一郎 (CIAS)

「共同研究の概要」

柴山 守 (京都大学東南アジア研究所)

「地域情報学の展開」

林 行夫 (CIAS)

「大陸部東南アジア仏教徒社会のマッピング—＜実践＞を発見する試み—」

飯島 渉 (青山学院大学文学部)

「感染症の流行に関する歴史的データの整理とその国際保健・記述疫学への応用」